川崎が舞台の作品

多摩区が舞台の作品

歌え！多摩川高校合唱部

本田有明／著　河出書房新社

みんなの声

高校生のときに読んだ本です。当時コーラス部に所属していて、少人数だったため境遇が似ていたため入り込むように読んでいました。「歌え！多摩川高校合唱部」に触発され、Nコンに出場し、多摩川高校のように上位大会出場にはいたりませんでしたが、コンクールに向けて仲間と共に練習したことは大切な思い出になっています。

数年前、大学進学を機に川崎市に引っ越し、川崎市は合唱団が多く、合唱が盛んなのでこの物語の舞台が川崎市であったことに合点がいきました。市内の合唱団で今でも合唱を続けています。　(小野)

※多摩川高校のモデルは？ 神奈川県立多摩高校です。同校の最寄り駅であるJR南武線の宿河原駅周辺の描写もあります。

魍魎の匣（もうりょう はこ）

京極夏彦／著　講談社（講談社文庫）

みんなの声

古本屋兼憑物落としの中禅寺秋彦（京極堂）が奇怪な事件の謎を解く、ミステリの名作「百鬼夜行シリーズ」第二弾。線路に転落した少女、バラバラ殺人事件、そして「匣の中の娘」。探偵、刑事、小説家に事件記者、京極堂のまわりで様々な人が関わる事柄が、ひとつの結末に収束していく様は圧巻です。分厚いことで有名ですが、夢中になって数日で読んでしまいました。

今作では作品舞台の一部に登戸が登場し、陸軍登戸研究所にも触れています。　(hara)

※登戸研究所 太平洋戦争前に旧日本陸軍によって開設された研究所。秘密戦兵器・資材を研究・開発。終戦とともに閉鎖。現在は明治大学生田キャンパス内に資料館として開設され、平和教育の発信地となっています。

夕べの雲

庄野潤三／著　講談社（講談社文芸文庫）

みんなの声

昭和30年代の多摩区生田の大きな変化の中で家族の日常を淡々と描き人生の様々な場面を浮き彫りにしていく。その後の生田の山の上での老後日々に至る一連の作品の原点のような作品　(橋本久美子さん)

※1964（昭和39）年9月から1965（昭和40）年1月まで日本経済新聞夕刊に連載された、家族の日常を描いたのが本作品です。作者も実際に東京から生田に転居し、執筆活動を続けていました。

多摩川物語

ドリアン助川／著　ポプラ社（ポプラ文庫）

みんなの声

「あん」（ドリアン助川／著、ポプラ社）で感動し、ドリアンさんの他の著書も読んでみたいと探していた時に目に飛び込んできた「多摩川物語」という題名。私が子供の頃から慣れ親しんできた多摩川が、どのように描かれているのか。興味深く手に取りました。

8つの短編のうち、「6花丼」は川崎側の出来事。その他7編は東京側の岸辺での日常や、そこで生活する人々が橋を渡って川崎側に来る様子などが描かれています。明るい話ばかりではありませんが、8編が微かに絡み合い、孤独感の中にも人間同士の繋がりや縁、温かさが感じられる作品です。　(ゆか)

高津区が舞台の作品

忘れえぬ人々

国木田独歩／著
「武蔵野」　KADOKAWA（角川文庫）
ほか所収

みんなの声

溝口の宿屋「亀屋」がでてくる。亀屋は、なくなったが、文学碑が市立高津図書館前にある。　(まんまる)

※亀屋の歴史「忘れえぬ人々」は、主人公の文筆家が宿泊先で出会った人々との交流を描いた作品です。その舞台は、かつて「溝口駅入口」交差点脇にあった「亀屋旅館」です（1642（寛永19）年に創業）。島崎藤村による題字の石碑は1934（昭和9）年に亀屋主人、鈴木久吉の立案で建てられ、2002（平成14）年高津図書館前へ移設されました。

天体戦士サンレッド

みんなの声

川崎市高津区を中心に、ヒーローサンレッドと世界征服を企む悪の秘密結社フロシャイムの戦いを描いている（という設定）

悪の組織側であるヴァンプ将軍と怪人たちがとても庶民的で善人。

ゴミ出しのルールや町内会活動に精を出している所がストーリーのミソ。　(くまもと ちえみ)

くぼたまこと　スクウェア・エニックス

フロシャイム便り出張版

天体戦士サンレッド アニメファンブック

壽屋

みんなの声

昔、川崎を舞台にしたこの作品に大いに笑わされ、楽しみました。この本はそのアニメについての本です。　(カワサッキーナ)

※本書は、アニメ制作にかかわりのある方々のインタビューの他、ショッピングスポット、地元のグルメ、名所・旧跡の紹介など、まるで高津区のガイドブックのような内容で満載です。さらに、川崎フロンターレの選手がアニメに登場するなどのコラボレーションも実現しています。

虹色のチョーク

働く幸せを実現した町工場の奇跡

小松成美／著　幻冬舎

みんなの声

社員のうち7割を知的障がい者を雇用している市内のチョーク製造会社「日本理化学工業」の取り組みを取り上げている。　(白墨)

※日本理化学工業株式会社は、高津区久地に本社があります。2023(令和5)年8月、ドラマ「虹色のチョーク知的障がい者と歩んだ町工場のキセキ」として日本テレビ「24時間テレビ」にて放送されました。

川崎区・幸区・中原区が舞台の作品

日本に住んでる世界のひと

金井真紀／文・絵　大和書房

みんなの声

川崎区にある桜本のコリアンタウンに住む、川崎のハルモニのお話が掲載されています。

労働のために川崎へ出稼ぎにきた朝鮮人、その子孫たちのたくましく生きる姿やその記録に川崎の歴史を学ぶことができます。　(RINA)

ルポ川崎

磯部涼／著　サイゾー

みんなの声

川崎のリアルタイムな負の部分についてきちんと向き合っている点　(うりむー)

院内刑事（デカ）シリーズ

濱嘉之／著　講談社

みんなの声

川崎の港湾部の立地、病院の経営についてのアイデア。ところどころに市内が出るのもよし。　(MM)

※作品の舞台「川崎殿町病院」のある殿町地区について
かつては大手自動車メーカーの工場のあった地区ですが、現在はライフサイエンス・環境分野を中心に、世界最高水準の研究開発から新産業を創出するオープンイノベーション拠点として生まれ変わりました。

ブレーメン通りのふたご

藤内明子／作　井田千秋／絵　フレーベル館

みんなの声

元住吉在住です。ブレーメン通りが舞台ということで読んでみたいと思いました。　(佐藤聡子さん)

※作品の中に「元住田小学校」と主人公が通う学校の名前が出てきます。実在する学校ではありませんが、物語の舞台が元住吉駅周辺であることを想像させます。
※商店街の歴史：東急東横線元住吉駅西口から全長550メートル、加盟店舗数180が集まる商店街です。（2024年7月時点の「モトスミ・ブレーメン通り商店街」HPから引用）1990（平成2）年に、モール化工事を終え、「モトスミ・ブレーメン通り商店街」と名称を変更しました。1997（平成9）年に、全国商店街振興組合連合会が選ぶ全国10か所優良商店街に選定される他、様々な賞を受賞しています。

江分利満氏の優雅な生活

山口瞳／著　筑摩書房（ちくま文庫）ほか

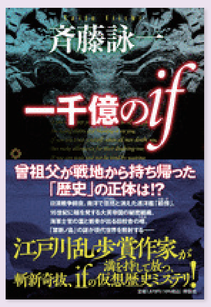
みんなの声

東京と横浜の間の川崎が舞台です。映画化もされ、元住吉周辺で撮影されました。監督の岡本喜八生誕百周年にてアートシアターで2月に上映されました。　(洞口裕康さん)

※元住吉が舞台
電機メーカーに勤める主人公の住む社宅が、東横線の渋谷駅と横浜駅の中間にあること、当時（昭和30年代後半）この周辺には、多くの社宅があったとの描写があります。
※岡本喜八氏について　岡本喜八氏は川崎市に在住、日本映画大学の特別講師も務めたこともあるなど、川崎市にゆかりのある映画監督です。2005（平成17）年、81歳にて永眠。
※テレビドラマ化されています　1975（昭和50）年3月にNHK銀河テレビ小説として放映されました。脚本は山田太一氏です。

一千億のｉｆ

斉藤詠一／著　祥伝社

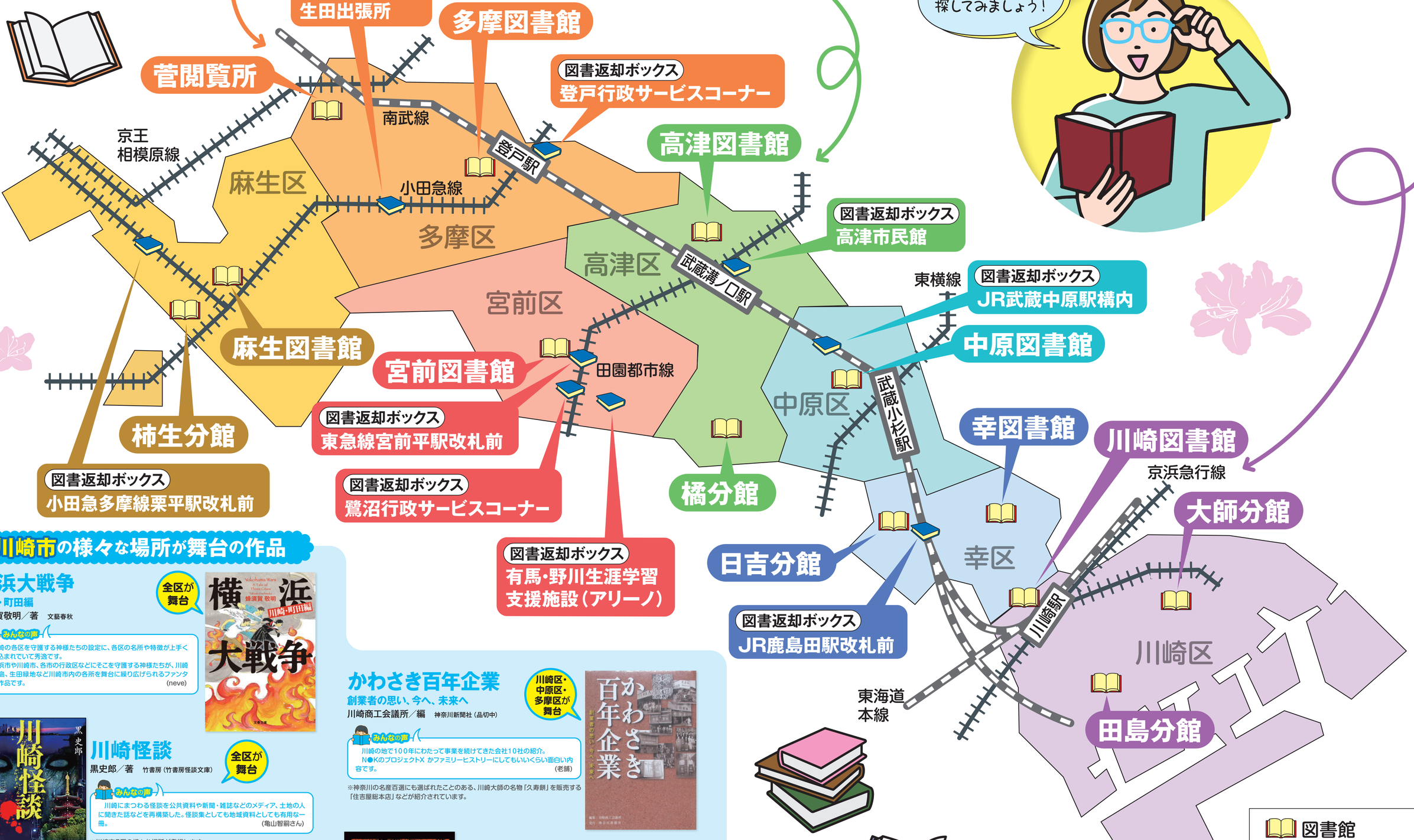


みんなの声

あり得たかもしれない歴史を研究するゼミに所属する大学生が主人公の、歴史ミステリーにSF、冒険ものが加わった秀逸な小説です。主人公が曽祖父の足跡をたどることから始まる物語は、太平洋戦争、日清戦争期へと広がっていき、人類学の謎へつながっていきます。主人公が在籍するのは南武大学。南武線を想起するこの大学は、作者によると多摩地域から神奈川県川崎市・横浜市あたりのどこかにあるという設定だそうです。そして物語には川崎市内にある量子コンピュータ施設も登場し、物語終盤の重要な舞台となります。

作者のX（旧ツイッター）によると、作者は川崎フロンターレの熱烈なサポーターで、ホームゲームはいつも等々力で観戦しているようです。川崎在住のようで、南武線ネタもXには出てきます。　(猫豆)

※量子コンピュータ施設は実在の施設
商用量子コンピューター「Kawasaki」が設置されている施設である「新川崎・創造のもり」は、産学官の連携により新しい科学技術や産業を創造する研究開発拠点です。



川崎市の様々な場所が舞台の作品

横浜大戦争

川崎・町田編

蜂須賀敬明／著　文藝春秋

全区が舞台

みんなの声

川崎の各区を守護する神様たちの設定に、各区の名所や特徴が上手く盛り込まれていて秀逸です。

横浜市や川崎市、各市の行政区などにそこを守護する神様たちが、川崎区扇島、生田緑地など川崎市内の各所を舞台に繰り広げられるファンタジー作品です。　(neve)

川崎怪談

黒史郎／著　竹書房（竹書房怪談文庫）

全区が舞台

みんなの声

川崎にまつわる怪談を公共資料や新聞・雑誌などのメディア、土地の人に聞きた話などを再構築した。怪談集としても地域資料としても有用な一冊。　(亀山智嗣さん)

※川崎市7区の様々な場所が登場します。
川崎市青少年の家（宮前区宮崎）：戦前、軍の将校の集会所があったそうです。
布子坂（麻生区高石）：今では住宅が立ち並ぶ一角ですが、昭和初期のころ、夜になると小豆を研ぐような音が聞こえてきたそうです。

東京再発見 ―土木遺産は語る―

伊東孝／著　岩波書店（岩波新書）

川崎区・中原区が舞台

みんなの声

関東大震災以後多摩川と隅田川・荒川の橋が東京の“門”として東京を挟んで対称的に様々なタイプの橋が競うなす美しい景観が失われたのは残念です。また、川崎河港水門の設計者金森誠之についても、その多芸多才性に触れている。　(鉄筋レンガ)

※川崎市内のどの場所が登場する？
大師橋、六郷橋、川崎河港水門（川崎区）、丸子橋（中原区）

光

三浦しをん／著　集英社（集英社文庫）

川崎区・中原区が舞台

みんなの声

東京の離島で育った幼馴染らが、秘密を抱え、その秘密がゆえに裏切られ、崩壊していく様を臨場感ゆたかに描くミステリー　(subaru)

※登場人物が住む団地は、多摩沿線道路沿い、ＪＲ南武線向河原駅にも近い場所という設定になっています。その他、武蔵小杉駅、川崎駅、臨港中学校前バス停といった場所が登場します

かわさき百年企業

創業者の思い、今へ、未来へ

川崎商工会議所／編　神奈川新聞社（品切中）

川崎区・中原区・多摩区が舞台

みんなの声

川崎の地で100年にわたって事業を続けてきた会社10社の紹介。N●KのプロジェクトX かファミリーヒストリーにしてもいいくらい面白い内容です。　(老舗)

※神奈川の名産百選にも選ばれたことのある、川崎大師の名物「久寿餅」を販売する「住吉屋総本店」などが紹介されています。

吉良の白髪

幸区・中原区が舞台

福岡薫／著　文芸社

みんなの声

・八幡大神「アミガサ事件100年」の記念誌（多摩川築堤の碑）
・「有吉堤竣工百年の記念碑と解説版」・浄運寺（鹿島田）・称名寺
（関崎益男さん）

雫（しずく）の街

家裁調査官・庵原かのん

乃南アサ／著　新潮社

ほぼ全区が舞台

みんなの声

川崎地裁のお話です。川崎の地域が、様々な区で、登場します。　(ばあびい)

※川崎に赴任した家庭裁判所調査官の主人公が、就籍、失踪宣告といった様々な申立て、事件の調査に向き合う姿が描かれています。
物語の序盤、申立ての鍵を握るアイテムの1つとして、川崎のソウルフード「川崎ニュータンタンメン」が登場します！

テスカトリポカ

佐藤究／著　KADOKAWA

川崎区・中原区・高津区が舞台

みんなの声

好きなセリフは作中出てくるメキシコの言葉「ソモスファミリア（我々は家族だ）」

メキシコ、アステカ神話と川崎が繋がっていくクライムノベル。オススメ部分は圧倒的のノワール観、北野武監督の「アウトレイジ」のようなほぼ全員悪人。だけど一人一人がエネルギーの塊で、嵐のように激しい話になっていく。川崎の移民問題など、明るくない部分の川崎を真正面で捉えている。この作品が直木賞を受賞したのが、川崎出身として誇らしかったです。　(カモシダせぶん)

みんなの声

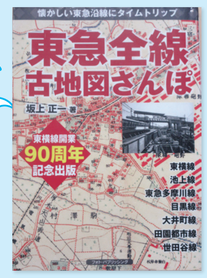
登場人物が川崎市出身、川崎市が舞台になっている。地元の高津図書館、警察、金物屋がモデルになっている。　(バンス佐智子さん)

東急全線古地図さんぽ

懐かしい東急沿線にタイムトリップ

坂上正一／著　フォト・パブリッシング

中原区・高津区・宮前区が舞台



みんなの声

僕は鉄道が好きです。川崎市には東急電鉄の東横線・目黒線の新丸子駅、武蔵小杉駅、元住吉駅があります。この本は、昭和の初めと昭和30年の各駅の周辺の古地図が載っていて、どんな風に駅や土地が変化したのか、よく分かるようになっています。

新丸子駅は昔は多摩川の砂利運搬用の駅で、近くに新丸子保線区があります。武蔵小杉駅は昔はJR南武線と離れた場所にありましたが、今はJR横須賀線にも乗り換えられるようになりました。元住吉駅は今は高架駅ですが、車庫と踏切だけは昔のまま地上にある珍しい構造です。新丸子、武蔵小杉、元住吉は、昔はほとんど周辺が田んぼだったのに、今は駅を中心に町が広がって、ビルが建って、たくさんの人が暮らしています。東急の鉄橋の多摩川橋梁ができて、多摩川の向こう側の東京都大田区へ渡れるようになって、川崎市はすごく発展したんだと思いました。東急電鉄の駅があったから、特に中原区が栄えたと思います。鉄道と一緒に川崎市が育ってきた事が、とてもよく分かる本です。100年先も、川崎市の歴史の資料として残したい本だと思います！　(後藤奏太さん)

ここに掲げた以外にも、川崎が舞台となっている小説等があります。川崎市立図書館のホームページでも紹介しています。詳しくはこちらから

カワサキの100タイトル（川崎市市制100周年記念事業）　令和6（2024）年9月発行
発行：川崎市市制100周年記念事業「川崎ゆかりの作品　あなたの『イチ推し本』大募集!!」（事務局：川崎市立中原図書館）　制作：株式会社押田印刷　〒210-0002 川崎市川崎区榎町 1-1

本書の一部あるいは全部を無断で複写・複製することは、法律で定められた場合を除き、著作権の侵害となります。